

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年4月25日

事業所名 共生型福祉サービス事業所タップチップス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	21	0	入浴のスペースが限られているので、補助具等を利用している。	増改築をして改善する目標がある。
	2	職員の配置数は適切である	20	1	新規採用の職員に対してOJTを取り入れた対応をしている。	現在の職員が安定して就業が続くよう、報連相が進むような雰囲気づくりを行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	21	0	設備については配慮して建築している。	テーブルや遊具で児童に怪我がないように、配慮を継続していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	17	1	毎朝の朝礼や会議を通して、改善に努めている。	職員全員が日々の業務の中で意識して取り組むための、職員の能力の向上のための取り組みを行う必要がある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	20	0	業務改善につながるよう、職員間のコミュニケーションの充実を図っている。	保護者とのコミュニケーションの質を向上させるよう目標設定している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	19	0	ホームページで公開している。	関係者全員がホームページの情報を把握できるよう取り組んでいく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	16	5	現在行っていない。	外部評価については今後具体的に検討していく予定である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	17	3	これまでに2回外部講師を招き、研修を行った。	今後は職員を外部研修に計画的に参加させていく予定である。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	20	0	現在すべての利用者のアセスメントを見直している。	アセスメントの見直しを行いながら、個別支援計画の作成を計画的に行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	19	0	使用している。	今後アセスメントツールも、誰もがわかりやすい書式に改善していく計画である。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	16	4	職員会議や日々の業務の中で取り組んでいる。	プログラム立案については、より質の高いものにするよう、取り組んでいく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	17	3	活動後に見直しを行い、固定化しないようにしている。	利用者の障害程度や健康状態を反映し、利用者がより楽しく成長できるように取り組んでいく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	15	5	個々の児童に柔軟に対応している。	実施している内容を職員間で見直し、いつでも確認できるよう可視化を行う計画である。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	22	0	日々対応している。	実施している内容を職員間で見直し、いつでも確認できるよう可視化を行う計画である。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	21	0	毎朝行っている。	今後も継続してそれぞれの職員の取り組みの充実を図るようにしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	12	8	その日の課題はその日の内に解決するようにしている。	気づいた点の共有については、漏れの無いよう具体的形式を作っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	21	0	記録の書式を改善した。	現在の記録作成を継続し、課題が明らかになったときに、改善をしていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	20	0	計画的に行っている。	定期以外にも変更が必要な場合は見直しを行っていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	17	0	常に意識して実施している。	形にとらわれることなく、利用児童の成長が図れるよう取り組んでいく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	22	0	実施している。	基本的には児童発達支援責任者が参加しているが、その子の状況によってはよりふさわしい職員を参加させることとしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	21	0	学校からの情報については送迎時以外にも連絡を行っている。	今後も学校との情報共有については、内容の充実を図っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	17	4	保護者からの情報が不十分な場合は保護者の許可を得て行っている。	現在は密に連絡を取る必要がある利用児童はいないが、医療的ケアについては保護者の許可を受けたうえで、主治医と連携の充実を図っていく。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	21	0	事前に情報を収集している。	個別対応の内容の充実を図っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	21	0	個々の環境に応じて行っている。	今後は提供した情報等について文書化して記録していく計画である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	16	4	個々の児童の状況や課題について連携している。	今後は計画的に研修等に参加していく予定である。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	18	現在検討中である。	地域の実情を把握したうえで、活動の機会を作っていくよう、活動する予定である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7	11	現在は参加できていない。	(地域自立支援)協議会等へ働きかけを行っていききたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	22	0	送迎時や、必要に応じて保護者への連絡を行っている。	共通理解が深まるよう、現在の取り組みの強化を図っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	18	1	困難を抱えている保護者に対しては、積極的に働きかけている。	生きづらさ抱えている保護者に対して、今後も支援を継続していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	21	0	理解が不十分な場合は補足して説明する働きかけを行っている。	今後も継続して、十分理解していただけるよう取り組んでいく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	21	0	個々の状況に柔軟に対応している。	必要な助言と支援を行っていくための、知識や情報の収集を行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	17	年に1回イベントを開催し、その中で連携の支援を行っている。	利用児童が北九州市八幡区から嘉麻市まで広範囲なため、今後の課題である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	21	0	迅速な対応を行っている。	迅速な対応に向けて、組織の再編を計画中である。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	28	3	ホームページで情報の発信を行っている。	会報については、具体的な内容について協議中である。
	35	個人情報に十分注意している	22	0	保管場所などや、職員への教育を行っている。	個人情報については、今後も十分注意して取り組んでいく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	21	0	個別の状況を判断した情報伝達を行っている。	保護者との意思の疎通については、今後も配慮を行っていく。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	14	地域との関係については、閉鎖性がないよう配慮を行っている。	事業所の行事に地域住民を招待することで開かれた事業運営とは考えていない。事業所から地域行事への参加を通して開かれた事業運営を目指したいと考えている。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	18	1	マニュアルの内容の見直しを行った。	マニュアルに沿った訓練や実施状況の情報を提供していく計画である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	18	3	避難訓練を行った。	今後は消防や警察との連携を図り、その協力の下、訓練を計画的に実施していく予定である。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	20	1	研修会を行い、専門知識を有する職員と協議しながら進めている。	日々の支援の中で、虐待につながらないように、今後も小さな芽の内に対応の強化を図っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	17	4	保護者への説明の上で、承諾書をとっている。	今後はより一層の配慮を行っていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	18	4	主に保護者からの情報に対応している。	医師の指示書が必要な児童の場合は、医師への指示書の依頼を行っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15	8	ヒヤリハットの記録をしている。	今後は事例集作成に向けて、事例の分析を行っていく予定である。